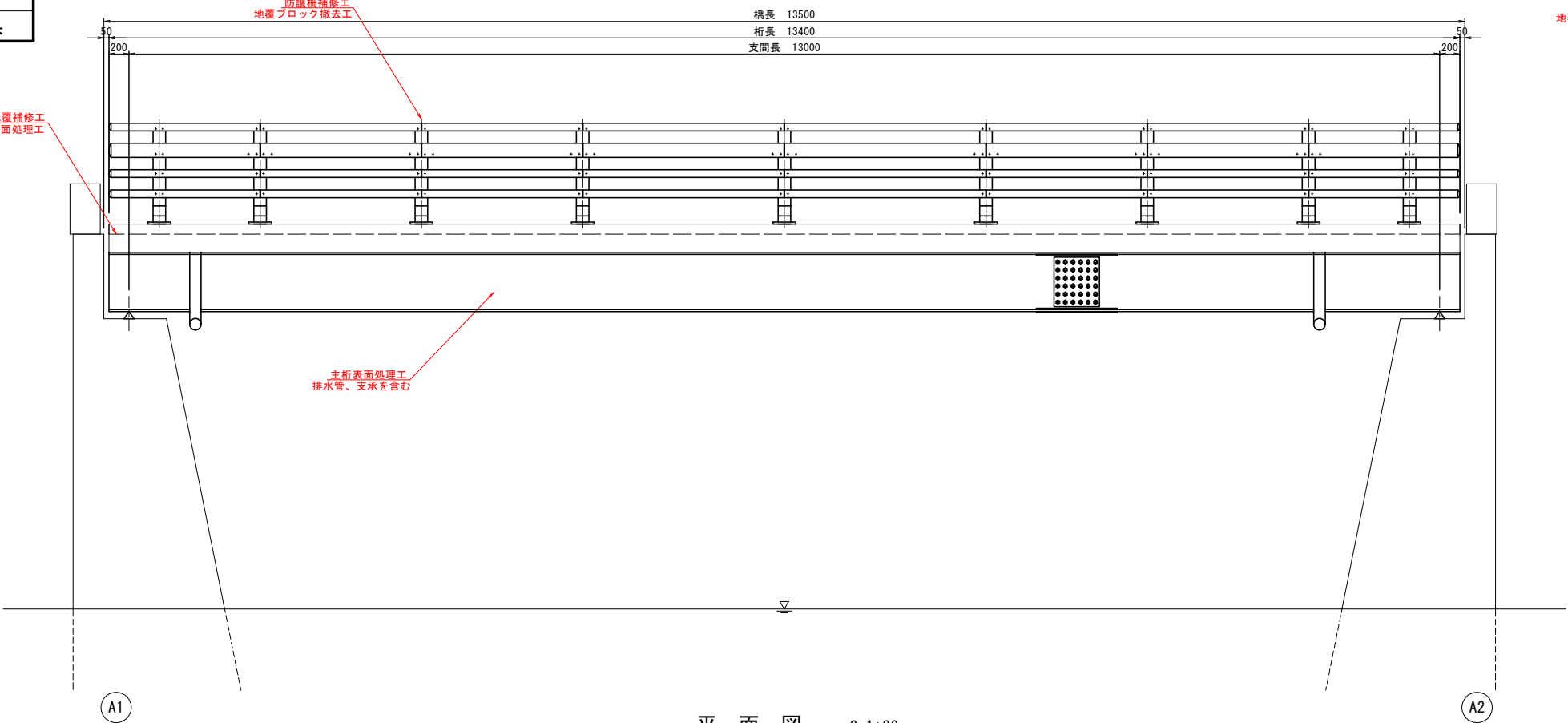


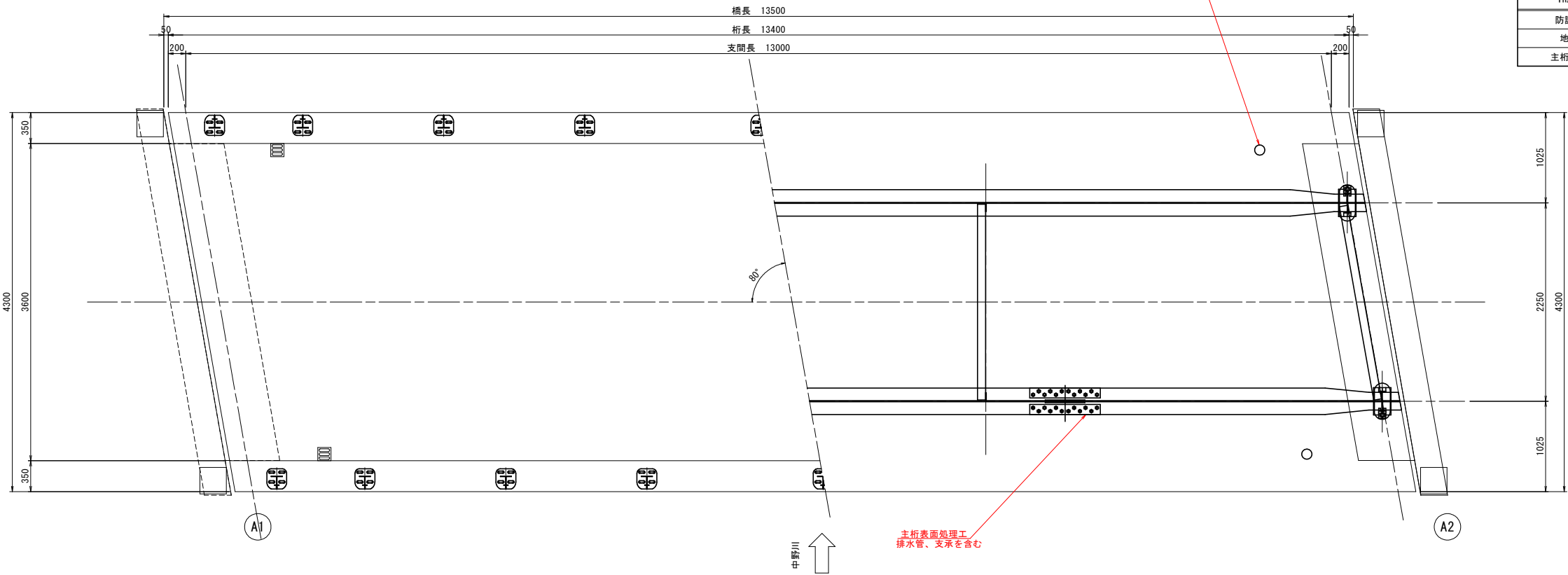
令和 7 年度			橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号				
路線 河川		下鳥谷部橋				
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内				
補修一般図		縮尺		図示		
図面番号		11 葉中 1				
七 戸 町						
青 森 県						

下鳥谷部橋 補修一般図

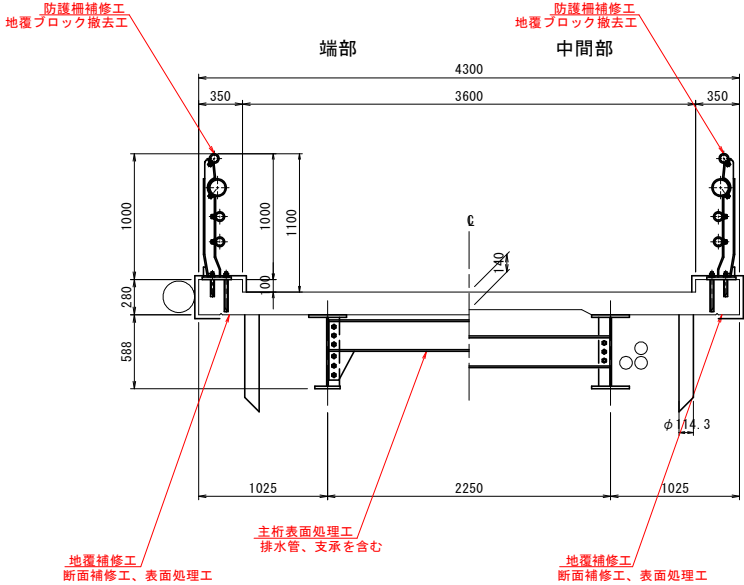
側 面 図 S=1:30



平 面 図 S=1:30



断 面 図 S=1:30



補修項目	補修工法
防護柵補修工	防護柵取替工、地覆ブロック撤去工
地覆補修工	断面修復工(左官工法)、表面処理工(表面含浸工)
主桁表面処理工	鋼部材再塗装工(Rc-1 塗装系)※排水管、支承を含む、金属バチ補修工(排水管)

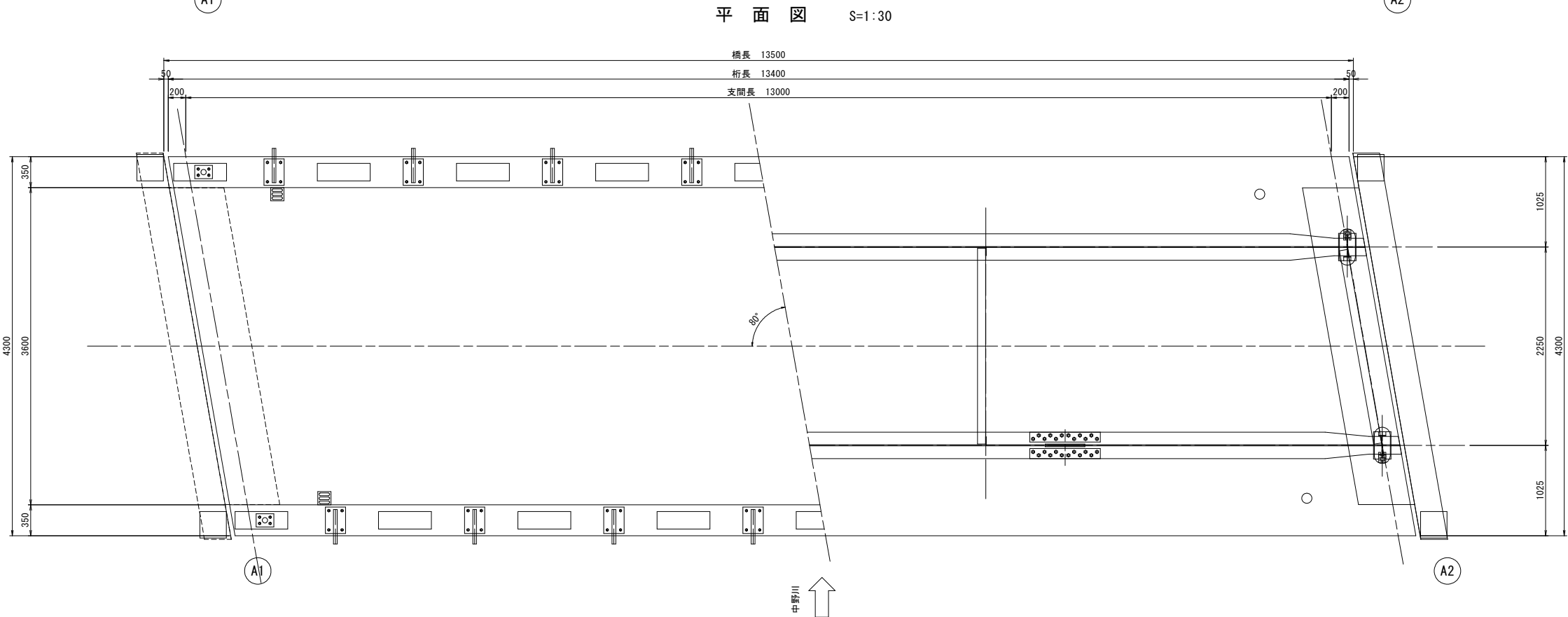
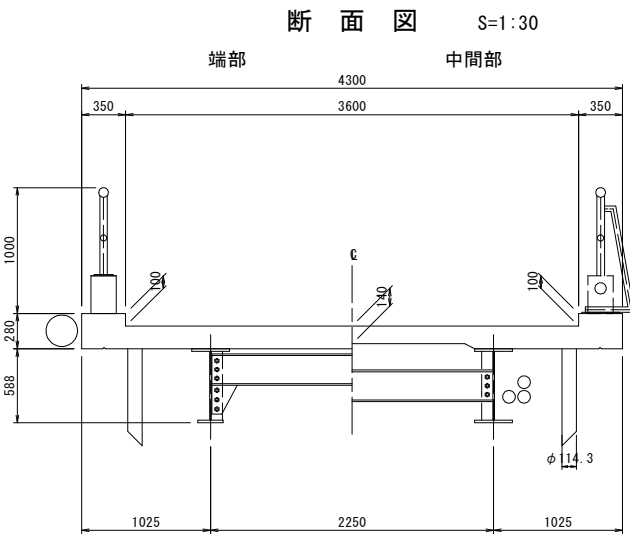
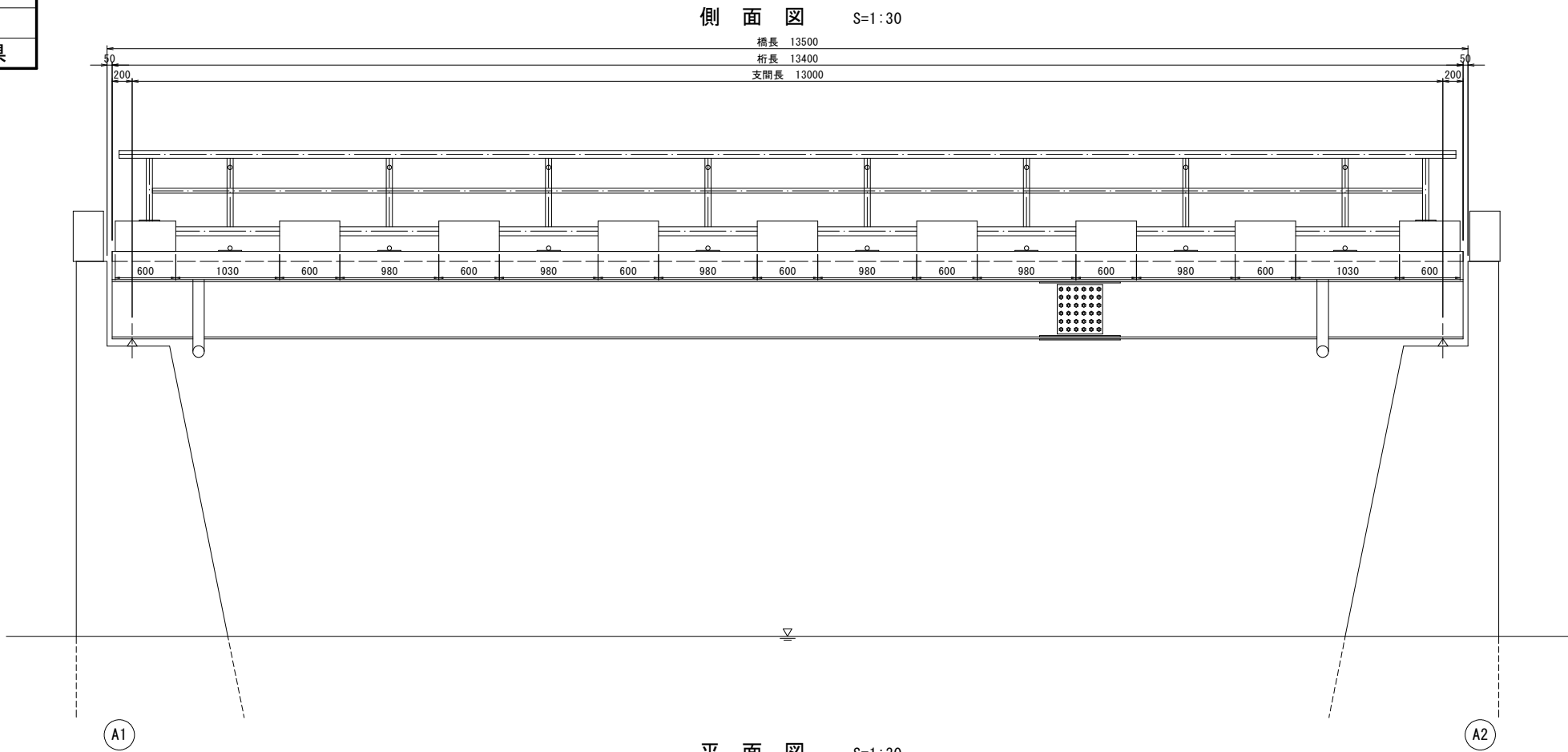
設 計 条 件

橋 梁 名	下鳥谷部橋 (しもとりやべし)
竣 工 年	1969年3月 (昭和44年)
橋 格	不明
設計荷重	不明
橋 長	L=13.500m
桁 長	L=13.400m
支 間 長	L=13.000m
有効幅員	W=3.600m (全幅W=4.300m) ※現地計測より
斜 角	80° ※現地計測より
平面線形	R=∞
橋面舗装	コンクリート舗装 (層厚不明)
添 架 物	水道管φ250-1条、情報管φ100-3条
上部工形式	単純鋼非合成I桁橋 (HBB)
下部工	躯体形式 重力式橋台
	基礎形式 杭基礎 (形式不明: 橋歴版より)
適用示方書	道示 (1964) (昭和39年) (竣工年次より推定)

注記  
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

令和 7 年度			橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号				
路線 河川		下鳥谷部橋				
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内				
現況一般図面			縮尺		図示	
図面番号		11 葉中 2				
七 戸 町						
青 森 県						

下鳥谷部橋 現況一般図



設 計 条 件

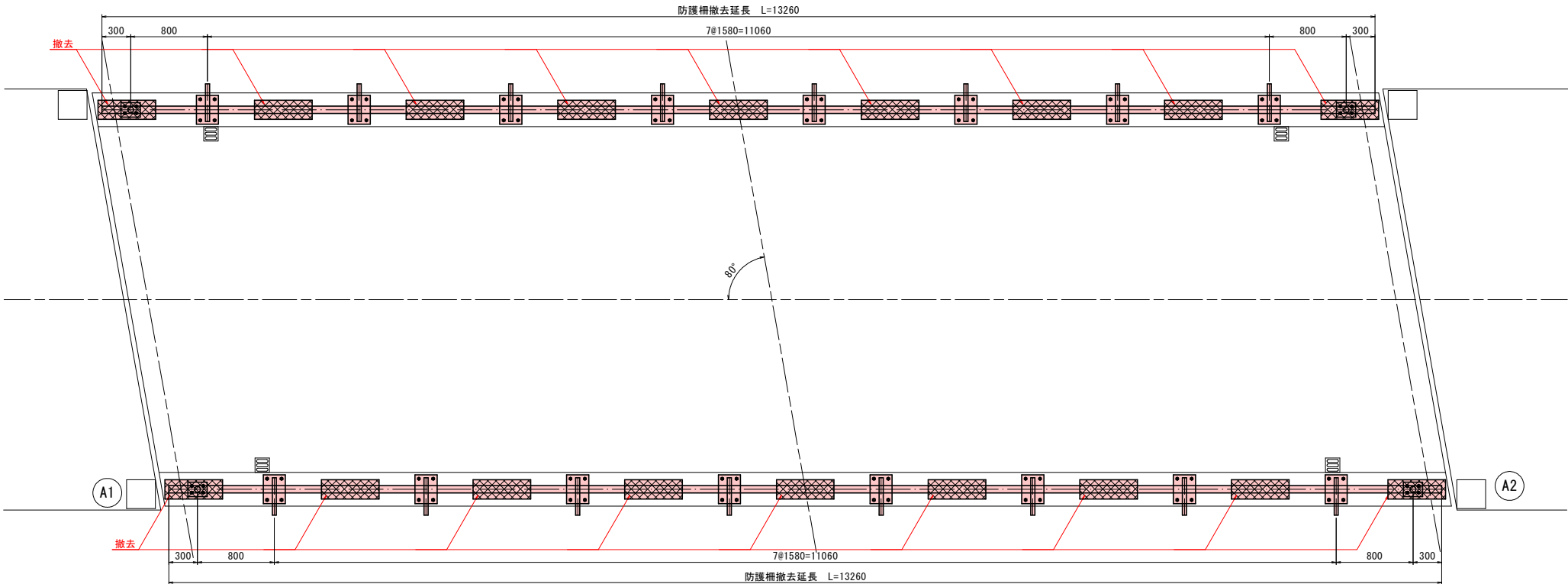
橋 梁 名	下鳥谷部橋（しもとりやべし）	
竣 工 年	1969年3月（昭和44年）	
橋 格	不明	
設計荷重	不明	
橋 長	L=13.500m	
桁 長	L=13.400m	
支 間 長	L=13.000m	
有効幅員	W=3.600m（全幅W=4.300m）※現地計測より	
斜 角	80° ※現地計測より	
平面線形	R=∞	
橋面舗装	コンクリート舗装（層厚不明）	
添 架 物	水道管φ250-1条、情報管φ100-3条	
上部工形式	単純鋼非合成H桁橋（HBB）	
下部工	躯体形式	重力式橋台
	基礎形式	杭基礎（形式不明：橋歴版より）
適用示方書	道示（1964）〈昭和39年〉（竣工年次より推定）	

注 記  
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

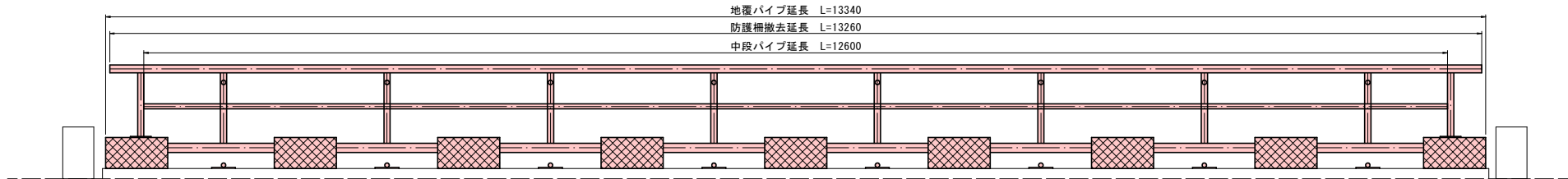
令和 7 年度				橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号					
路線 河川		下鳥谷部橋					
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内					
防護柵補修工図 (その1)		縮尺		図示			
図面番号		11 葉中 3					
七 戸 町							
青 森 県							

下鳥谷部橋 防護柵補修工図（その1）  
防護柵撤去工

平面図 S=1:30

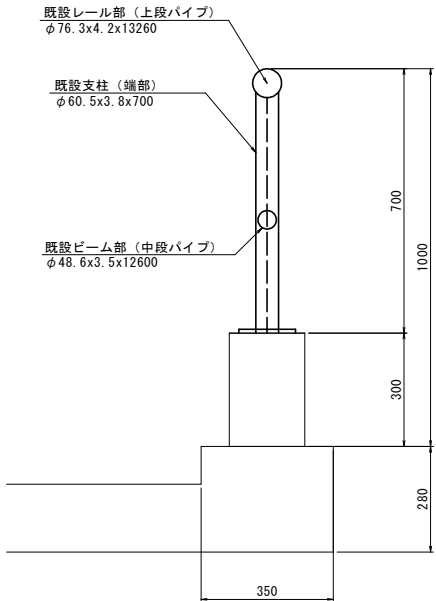


正面図 S=1:30

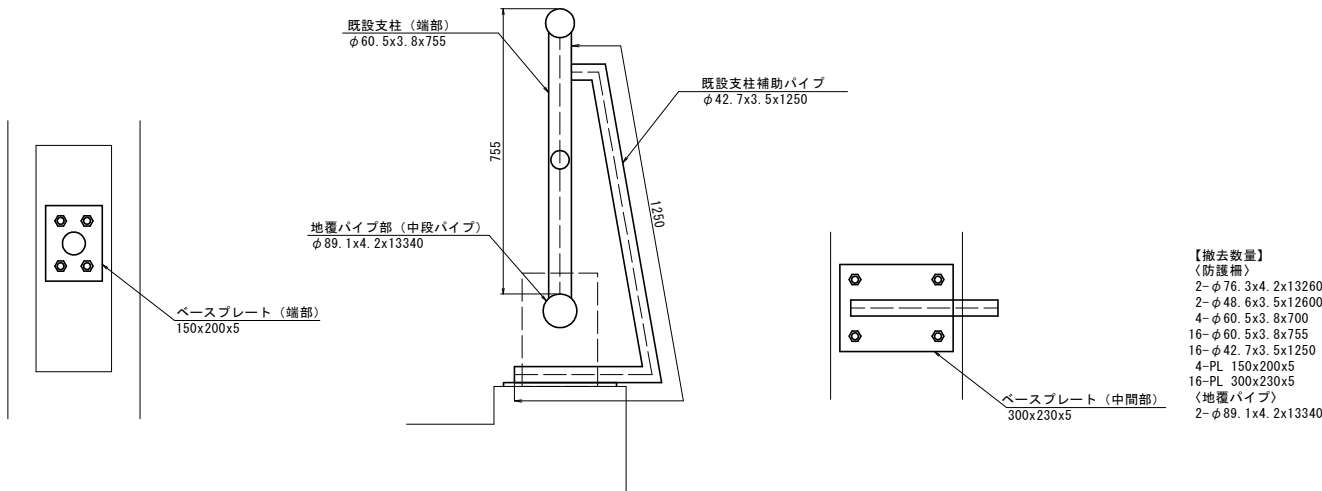


撤去防護柵詳細図 S=1:10

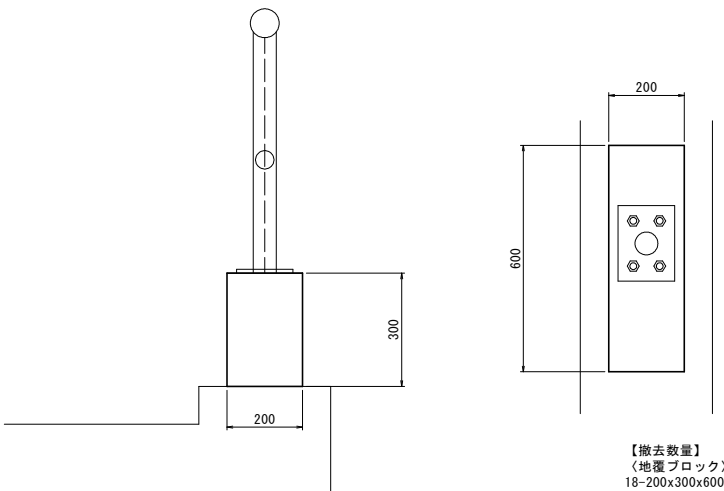
端部



中間部



撤去地覆ブロック詳細図 S=1:10



注記

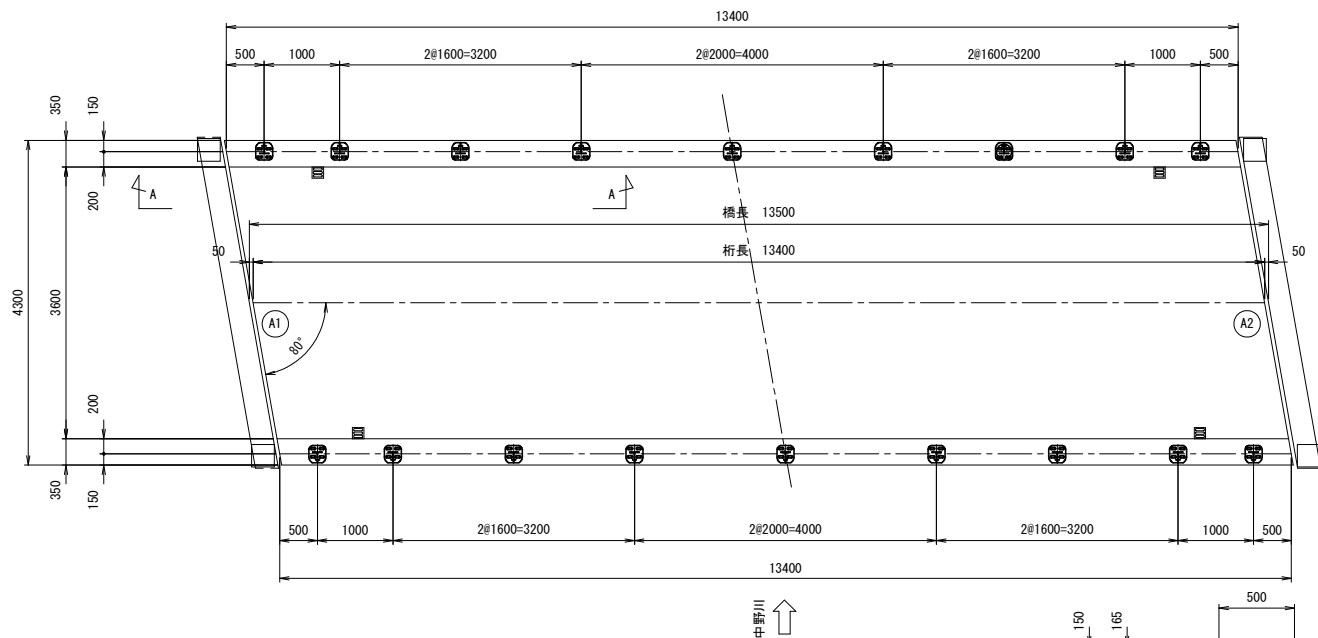
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

令和 7 年度				橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号					
路線 河川		下鳥谷部橋					
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内					
防護柵補修工図 (その2)		縮尺		図示			
図面番号		11 葉中 4					
七 戸 町							
青 森 県							

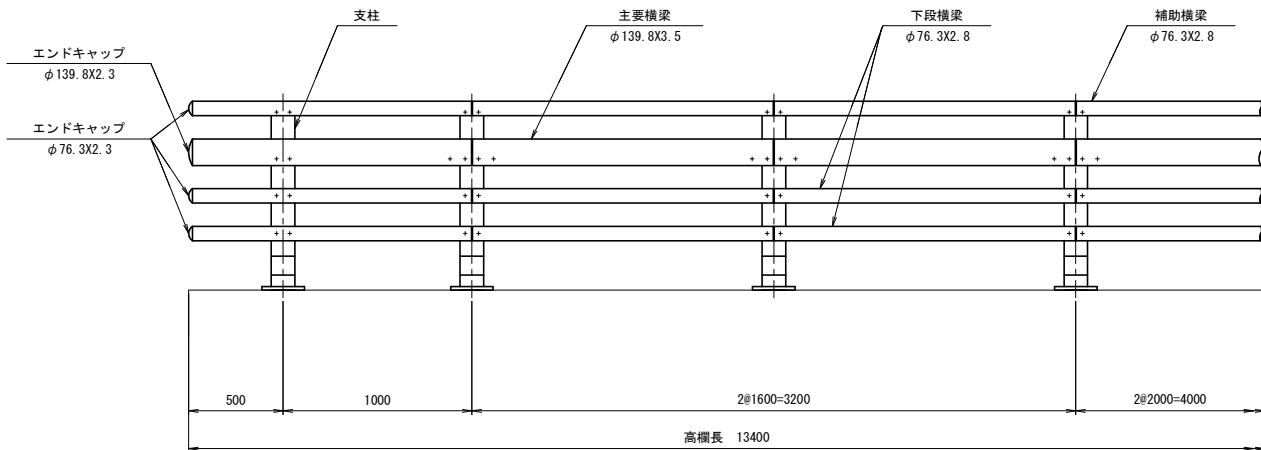
## 下鳥谷部橋 防護柵補修工図（その2）

### 防護柵設置工

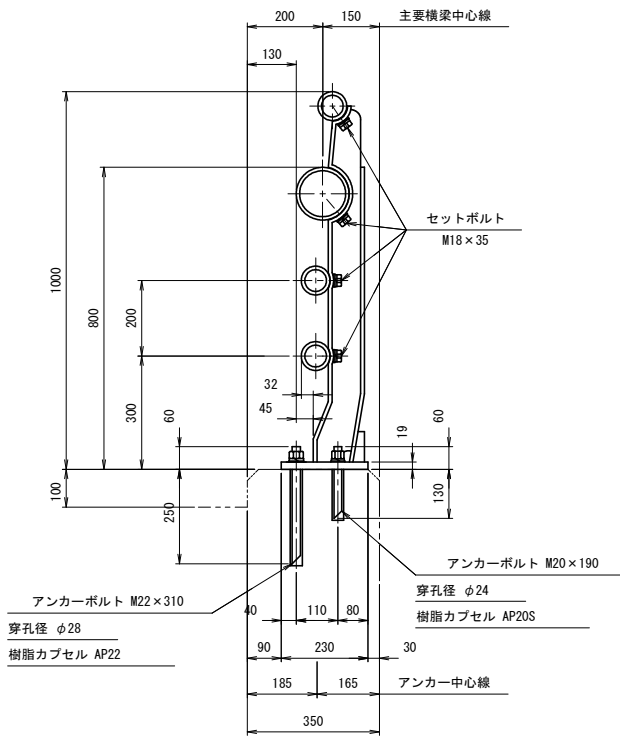
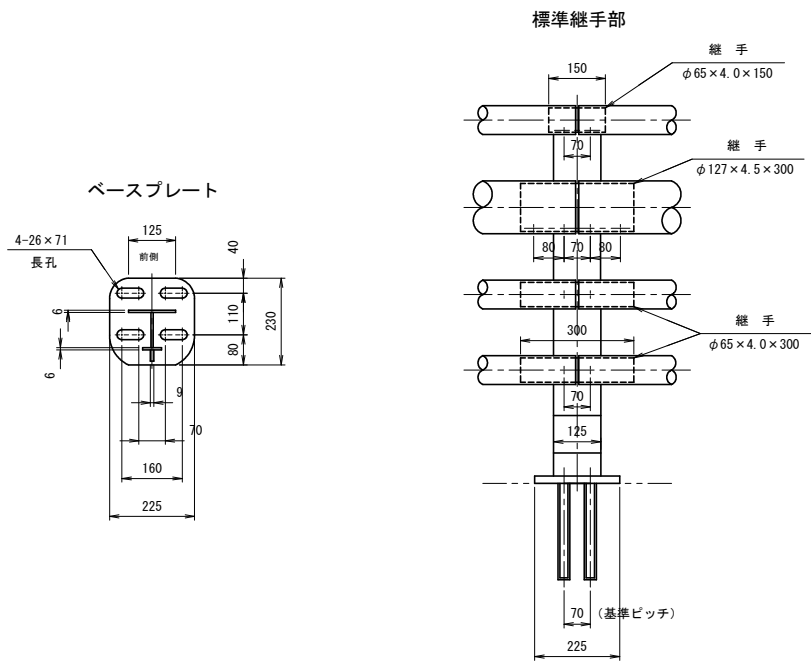
平面図 S=1:50  
(寸法線は主要横梁中心線上で実長を示す)



高欄取付図 S=1:20  
A - A 矢視



高欄詳細図 S=1:10



### 材 料 表

品 名	寸 法	材 質	数 量	単 重	重 量	備 考
支 柱	230X225	SS400	18	18.5 Kg/本	333	
主 要 横 梁	φ139. 8X3. 5X1995	STK400	4	11. 8 Kg/m	94	
主 要 横 梁	φ139. 8X3. 5X1595	STK400	8	11. 8 Kg/m	151	
主 要 横 梁	φ139. 8X3. 5X1477. 5	STK400	4	11. 8 Kg/m	70	
下 段 横 梁	φ76. 3X2. 8X1995	STK400	8	5. 08 Kg/m	81	
下 段 横 梁	φ76. 3X2. 8X1595	STK400	16	5. 08 Kg/m	130	
下 段 横 梁	φ76. 3X2. 8X1477. 5	STK400	8	5. 08 Kg/m	60	
補 助 横 梁	φ76. 3X2. 8X1995	STK400	4	5. 08 Kg/m	41	
補 助 横 梁	φ76. 3X2. 8X1595	STK400	8	5. 08 Kg/m	65	
補 助 横 梁	φ76. 3X2. 8X1477. 5	STK400	4	5. 08 Kg/m	30	
継 手	φ127X4. 5X300	STK400	14	13. 6 Kg/m	57	
継 手	φ65X4. 0X300	STK400	28	6. 02 Kg/m	51	
継 手	φ65X4. 0X150	STK400	14	6. 02 Kg/m	13	
エンドキャップ	φ139. 8X2. 3	SPCC	4	0. 35 Kg/コ	1	
エンドキャップ	φ76. 3X2. 3	SPCC	12	0. 19 Kg/コ	2	
セットボルト	M18X35 (B, W, SW)	4. 8以上	172	0. 15 Kg/本	26	
アンカーボルト	M22X310 (B, N, W, SW)	6. 8以上	36	1. 08 Kg/本	39	ケミカルアンカー
アンカーボルト	M20X190 (B, N, W, SW)	4. 6以上	36	0. 57 Kg/本	21	ケミカルアンカー
Σ =					1265 kg	
高 欄 長 = 26800						
R 加 工 = 0						
勾 配 エ キ ス ト ラ = 0						
突 合 せ 加 工 = 0						

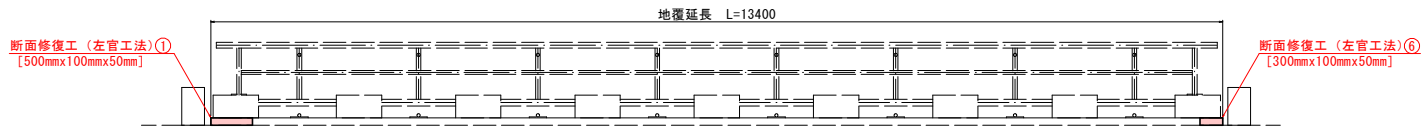
- 注記
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
  - 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
  - 本図面にて表面処理は、塗装仕様としている。表面処理を変更する場合は、協議を行うこと。
  - 支柱の製作勾配は、0%としている。再度現地計測を行って確認すること。
  - 橋梁用ビーム型防護柵は(一社)全国高欄協会にて認定された静荷重試験機により、性能確認された製品とする。

令和 7 年度			橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号				
路線 河川		下鳥谷部橋				
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内				
地覆補修工図 (その1)		縮尺		図示		
図面番号		11 葉中 5				
七 戸 町						
青 森 県						

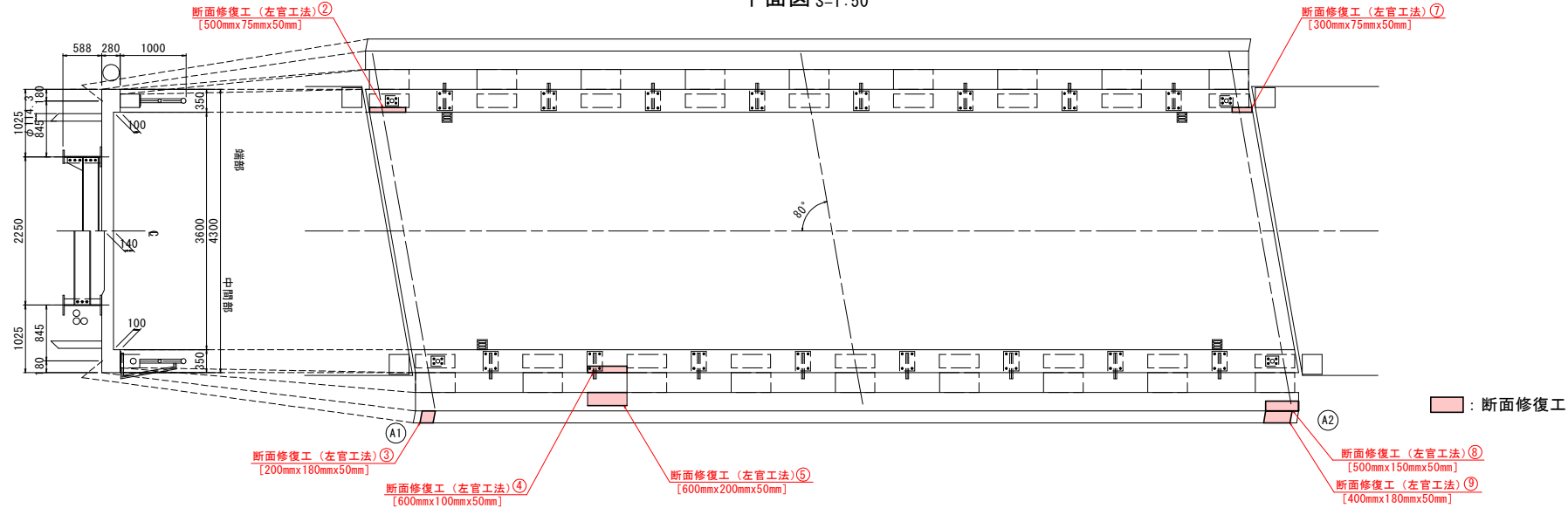
## 下鳥谷部橋 地覆補修工図（その1）

### 断面修復工

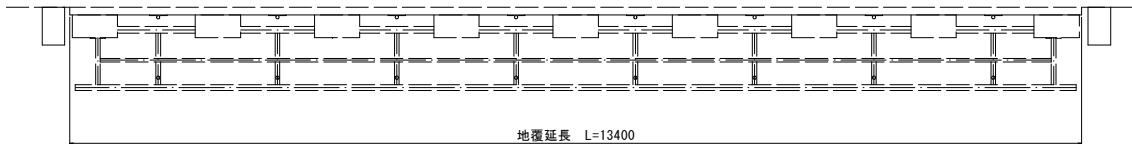
G1側側面図 S=1:50



平面図 S=1:50

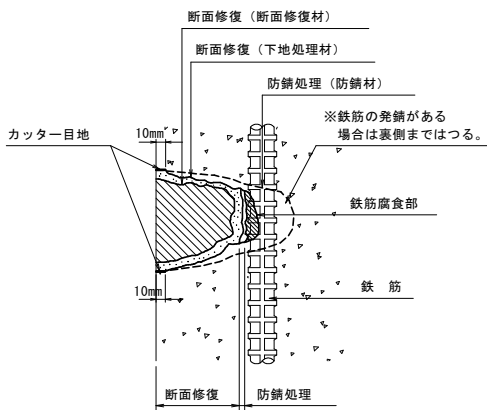


G2側側面図 S=1:50

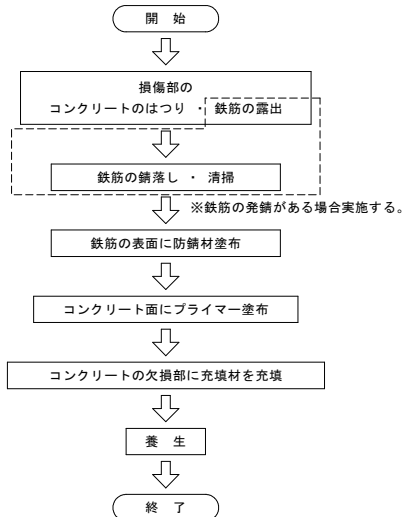


※防護柵及び地覆ブロックは撤去するため、破線で表記。

### 断面修復工〔左官工法〕



#### 断面修復の施工フロー



#### 断面修復工 数量表

(ポリマーセメントモルタル)

工 法	箇 所	寸 法		数 量
左官工法	地 覆	①	×0.500 x ×0.100 x 0.050	= 0.003 m <sup>3</sup>
		②	×0.500 x ×0.075 x 0.050	= 0.002 m <sup>3</sup>
		③	×0.200 x ×0.180 x 0.050	= 0.002 m <sup>3</sup>
		④	×0.600 x ×0.100 x 0.050	= 0.003 m <sup>3</sup>
		⑤	×0.600 x ×0.200 x 0.050	= 0.006 m <sup>3</sup>
		⑥	×0.300 x ×0.100 x 0.050	= 0.002 m <sup>3</sup>
		⑦	×0.300 x ×0.075 x 0.050	= 0.001 m <sup>3</sup>
		⑧	×0.500 x ×0.150 x 0.050	= 0.004 m <sup>3</sup>
		⑨	×0.400 x ×0.180 x 0.050	= 0.004 m <sup>3</sup>
		計		

#### 注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落し、補修を行うこと。  
はつりは最低50mm以上は行うこと。はつり後の断面にひび割れが確認される場合は、ひび割れを補修した後、断面修復を行うこと。
- 表記箇所以外に損傷が確認された場合は、同様の補修を行うこと。

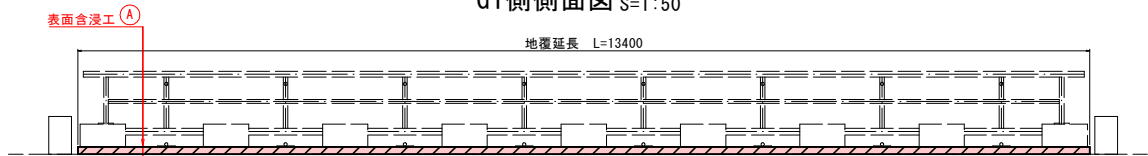
令和 7 年度				橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号					
路線 河川		下鳥谷部橋					
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内					
地覆補修工図 (その2)			縮尺		図示		
図面番号		11 葉中 6					
七 戸 町							
青 森 県							



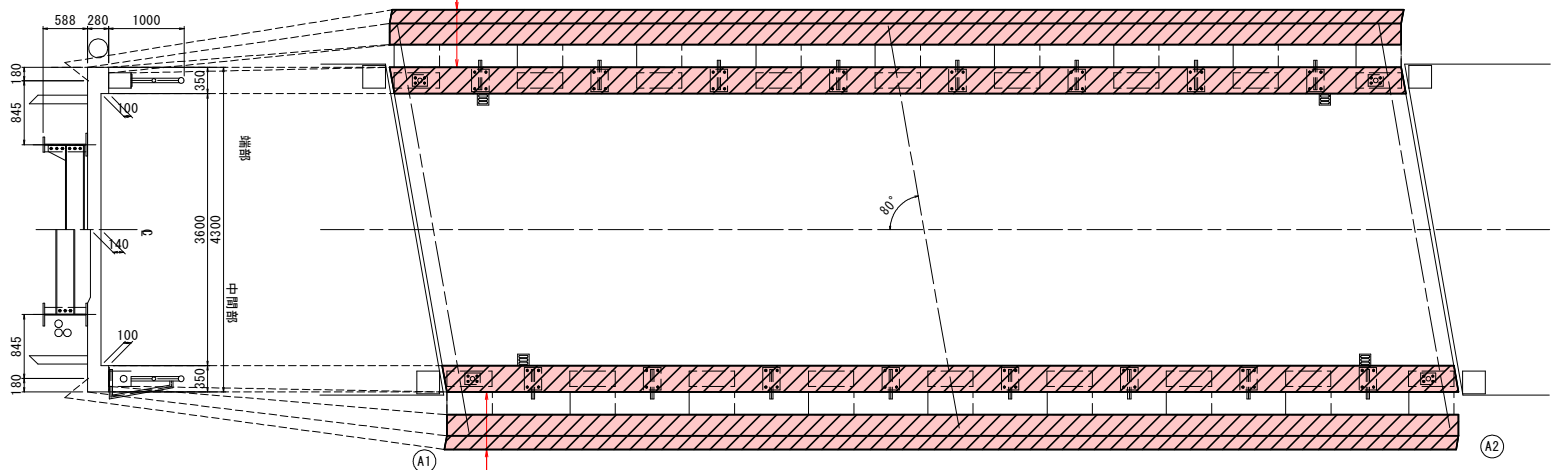
## 下鳥谷部橋 地覆補修工図（その2）

### 表面処理工

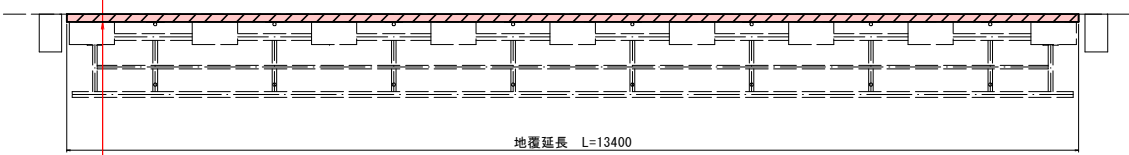
G1側側面図 S=1:50



平面図 S=1:50

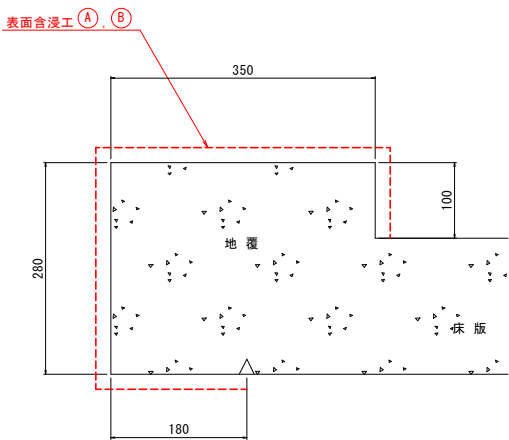


G2側側面図 S=1:50



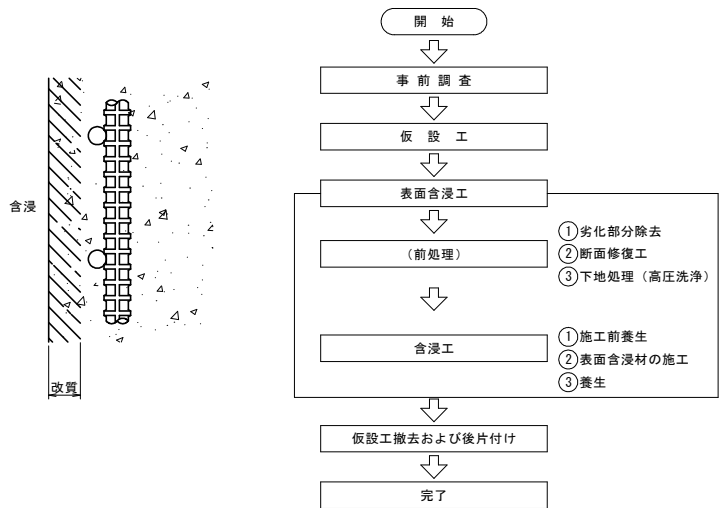
※防護柵及び地覆ブロックは撤去するため、破線で表記。

地覆断面図 S=1:5



### 表面含浸工

#### 表面含浸工の施工フロー



#### 表面含浸工 数量表

(けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水材)

工 法	箇 所	寸 法	数 量
表面含浸工	地 覆	(A) (0.180+0.0.280+0.350+0.100)x13.400	= 12.194 m <sup>2</sup>
		(B) (0.180+0.0.280+0.350+0.100)x13.400	= 12.194 m <sup>2</sup>
		計	= 24.4 m <sup>2</sup>

#### 表面含浸材の施工仕様例

工 程	標準使用量 (kg/m2)	施工方法	塗重ねの工程間隔
下地処理および清掃	別途	—	—
1 けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水材	0.15	ローラー塗り、ハケ塗り	—

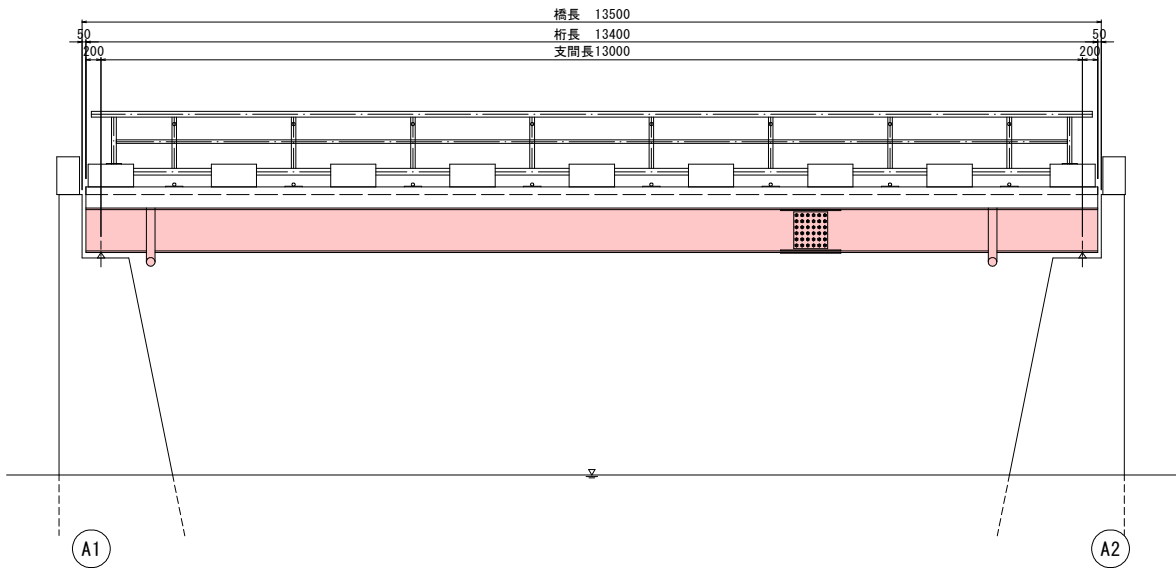
#### 注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 表面含浸工を適応する場合、無色透明であり実施可否がコンクリート表面で判断できない為、「補修履歴板」等で実施日を明示すること。
- 表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。
- 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。

令和 7 年度				橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号					
路線 河川		下鳥谷部橋					
施工箇所		七戸町下鳥谷部 地内					
主桁表面処理工図 (その1)				縮尺		図示	
図面番号		11 葉中 7					
七 戸 町							
青 森 県							

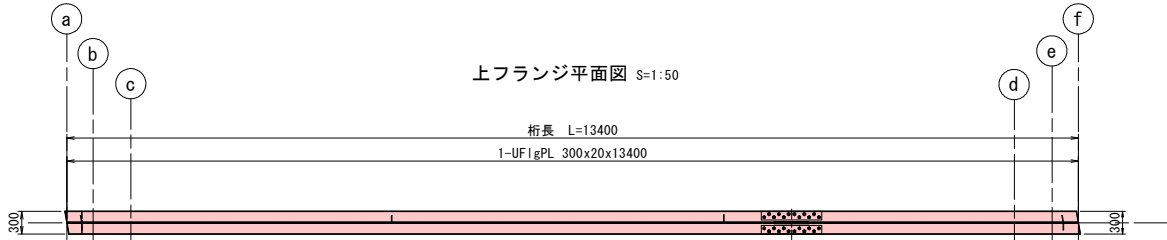
## 下鳥谷部橋 主桁表面処理工（その1）

側 面 図 S=1:50

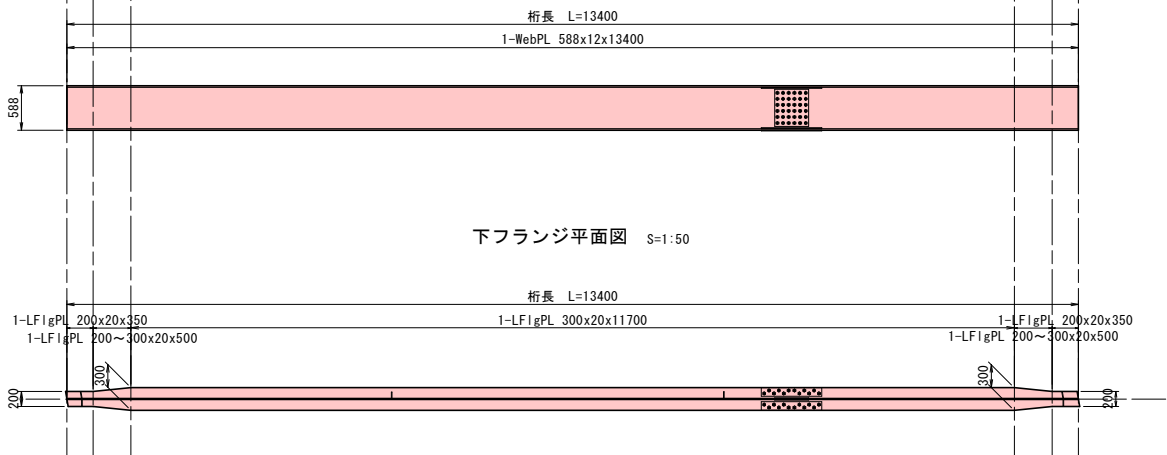


### 主 桁

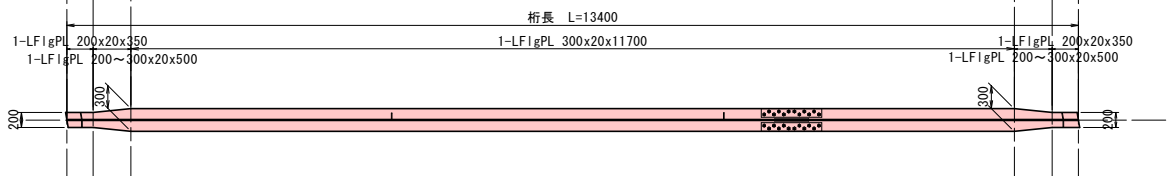
上フランジ平面図 S=1:50



側 面 図 S=1:50

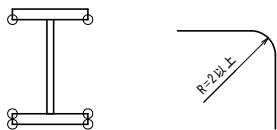


下フランジ平面図 S=1:50



鋼部材再塗装工

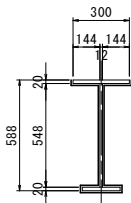
### エッジ部曲面仕上げ



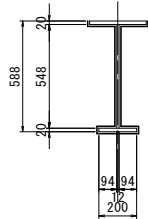
※ エッジ部は膜厚が確保されにくいことから、一般部と同等の塗膜性能を確保するため2R以上の面取りを行い、曲面仕上げとすること。  
(上フランジ・下フランジエッジ部：6角を対象とする)  
また、曲面仕上げを行ったエッジ部は、以下に留意し先行塗装を行う。  
① 各層での膜厚不足を回避するため、先行塗装は各層で行うこと。  
② 先行塗装は一般部と同じ膜厚とする。また、膜厚過多による硬化不良を起こさないことに注意し、本塗りと同じ日施工でも構わないこととする。

断 面 図  
S=1:20

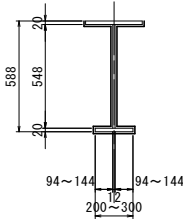
①～⑥  
(上フランジ)



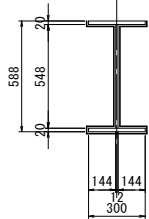
①～③, ⑤～⑥  
(下フランジ)



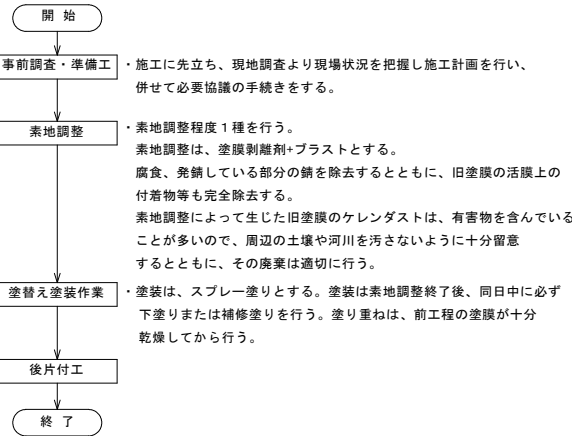
③～④, ④～⑤  
(下フランジ)



④～⑤  
(下フランジ)



### 施 工 手 順



### Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) <sup>2</sup>	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。  
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。  
※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

### 注記

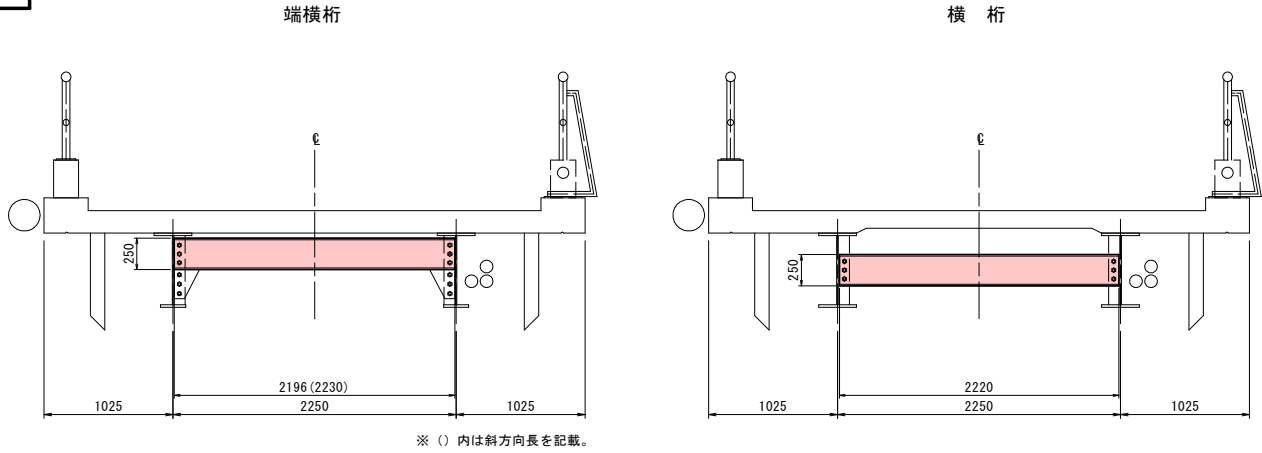
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

令和 7 年度				橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号					
路線 河川		下鳥谷部橋					
施工箇所		七戸町下鳥谷部 地内					
主桁表面処理工図 (その2)				縮尺		図示	
図面番号		11 葉中 8					
七 戸 町							
青 森 県							

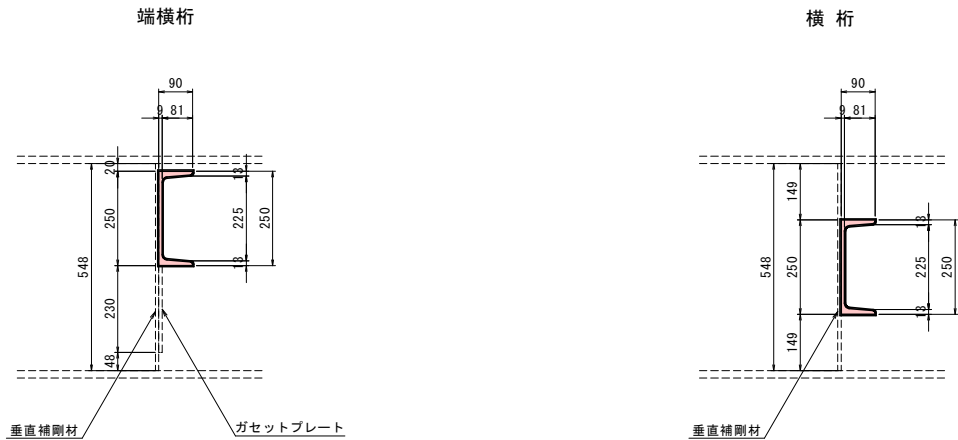
下鳥谷部橋 主桁表面処理工（その2）

横桁

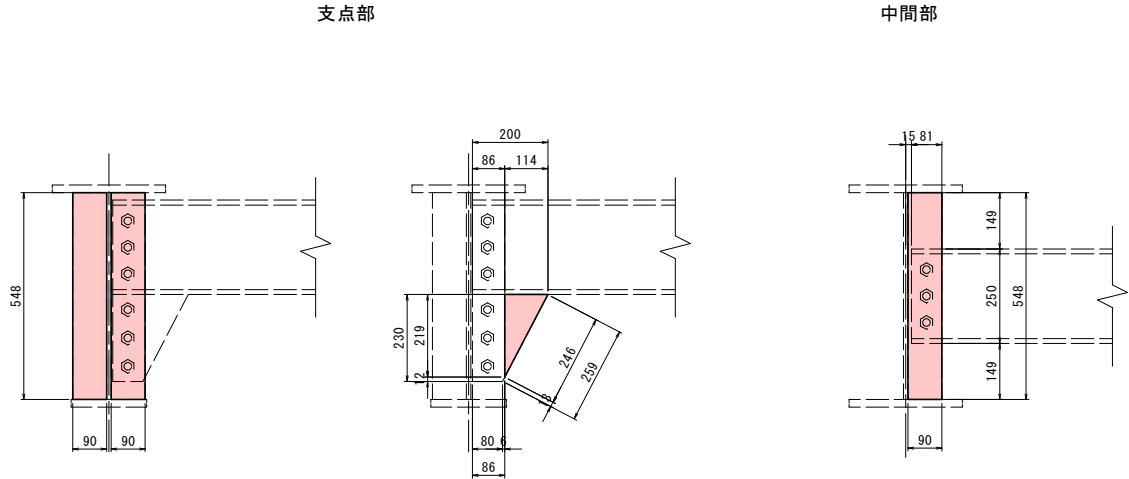
正面図 S=1:30



横桁詳細図 S=1:10



垂直補剛材詳細図 S=1:10

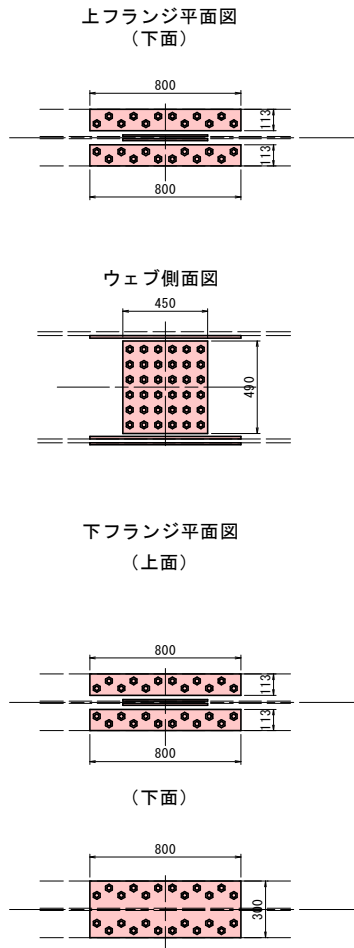


数量表

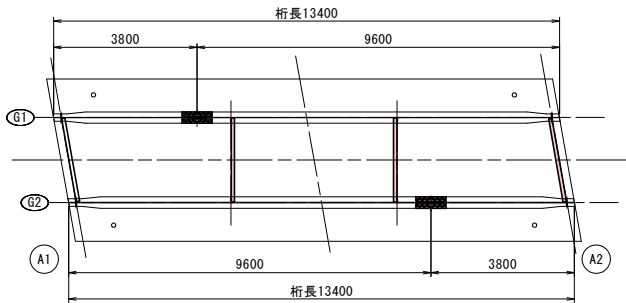
工 法	箇 所		寸 法	数 量
鋼部材再塗装工	端横桁		[-250x90x9x13x2230	2
	横桁		[-250x90x9x13x2220	2
	垂直補剛材	支点部	PL 90x9x548	8
			PL 200x9x230	4
			BOLT M20	24
		中間部	PL 90x9x548	4
			BOLT M20	12
			添接板	上フランジ部
	BOLT M22	48		
	ウェブ部	PL 450x9x490		4
		BOLT M22		72
	下フランジ部	PL 113x14x800		4
		PL 300x10x800		2
		BOLT M22	48	

：鋼部材再塗装工

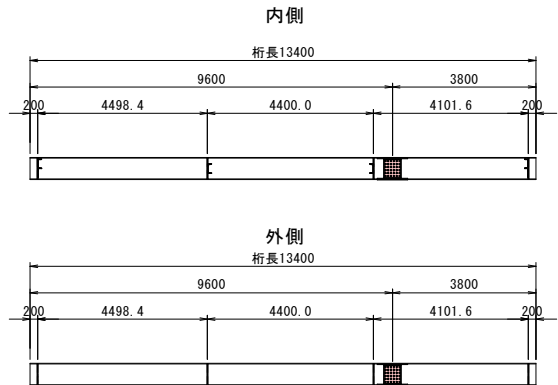
添接板詳細図 S=1:20



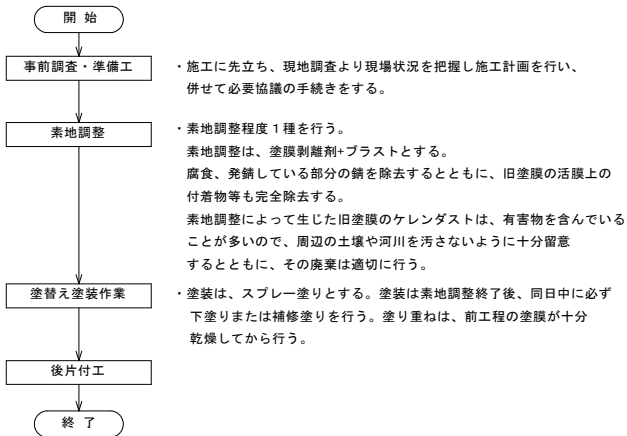
平面図 S=1:100



側面図 S=1:100



施 工 手 順



Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) <sup>2</sup>	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジクロリッペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。  
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。  
※3:プラスト処理による除せい度ISO Sa 2 1/2とする。

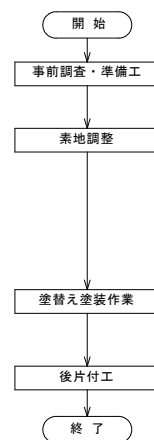
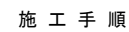
注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。



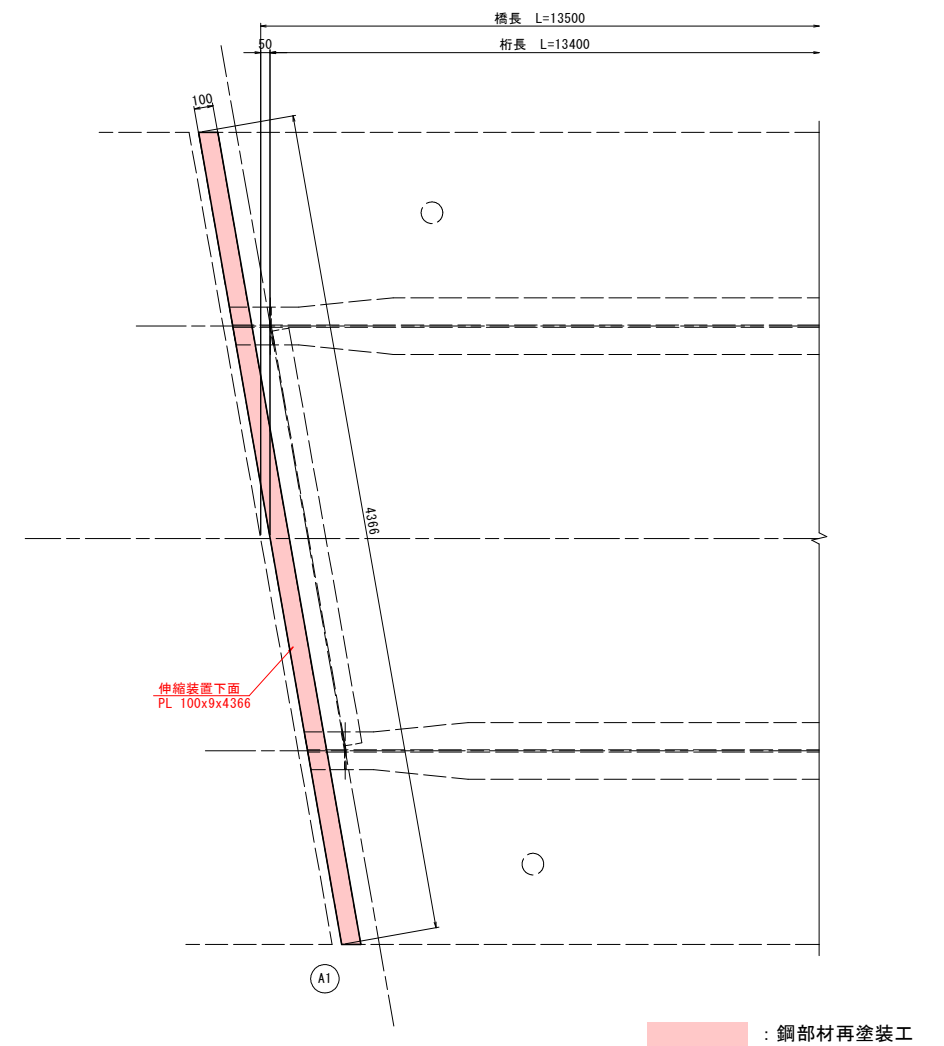


排水管詳細図



- ・施工に先立ち、現地調査より現場状況を把握し施工計画を行い、併せて必要協議の手続きをきる。
- ・素地調整程度1種を行う。  
素地調整は、塗膜剝離剤・プラスとする。  
腐食、発錆している部分の錆を除去するとともに、旧塗膜の活膜上の付着物等も完全除去する。  
素地調整によって生じた旧塗膜のケレンダストは、有害物を含んでいることが多いので、周辺土壌や河川を汚さないように十分留意するとともに、その廃棄は適切に行う。
- ・塗装は、スプレー塗りとする。塗装は素地調整終了後、同日中に必ず下塗りまたは補修塗りを行う。塗り重ねは、前工程の塗膜が十分乾燥してから行う。

平面図 S=1:20  
※A1, A2橋台共通

Rc-I 塗装系 (スプレー)

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) <sup>2</sup>	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジnkリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。  
 ※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。  
 ※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

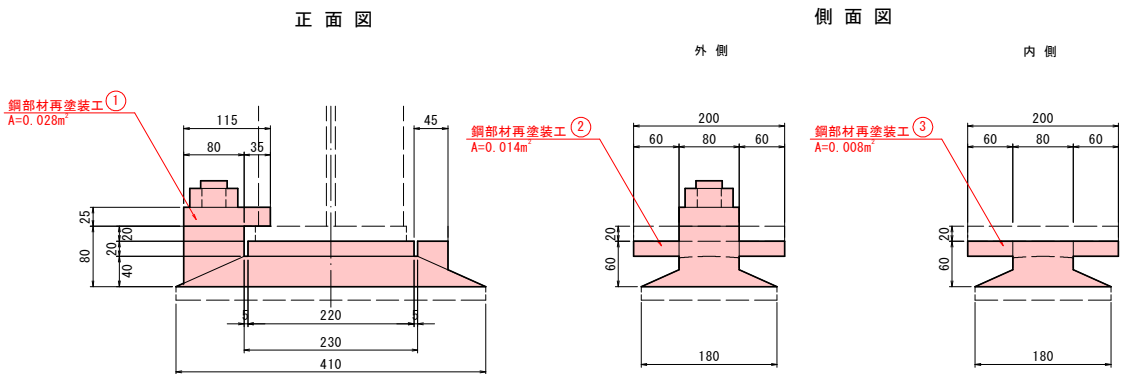
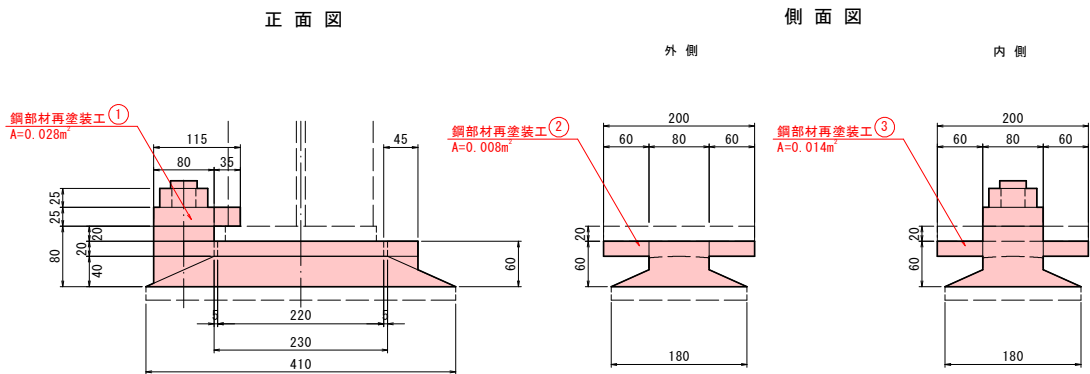
令和 7 年度				橋梁補修		工事	
工事番号		第 59 号					
路線名		下鳥谷部橋					
河川							
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内					
主桁表面処理工図 (その4)				縮尺		図示	
図面番号		11 葉中 10					
七 戸 町							
青 森 県							

下鳥谷部橋 主桁表面処理工図（その4）

支承詳細図 S=1:5

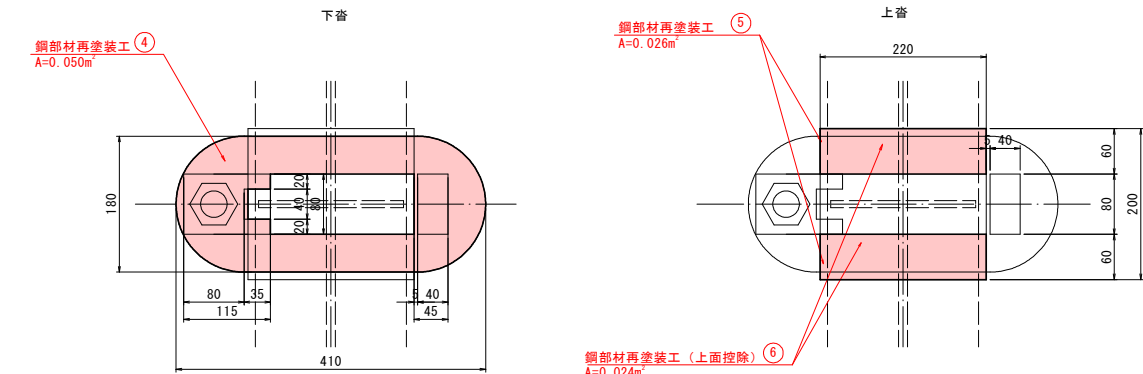
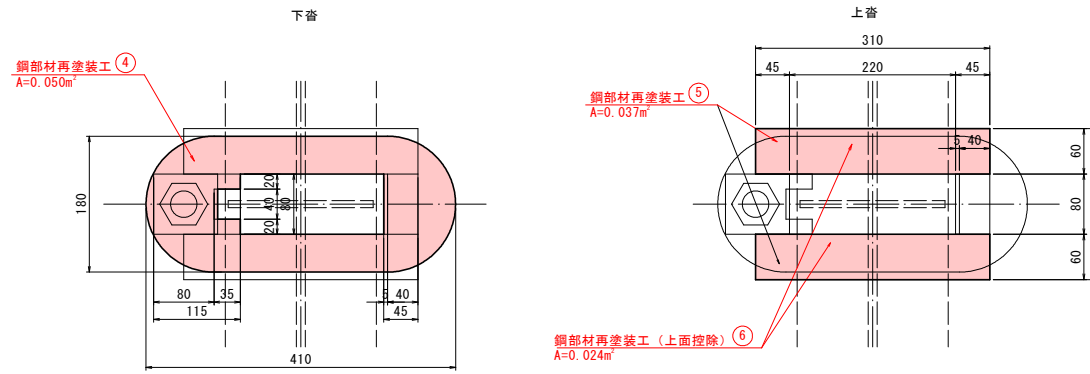
固定支承

可動支承



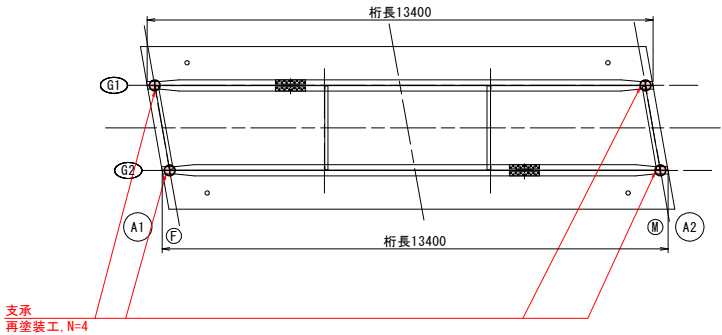
平面図

平面図

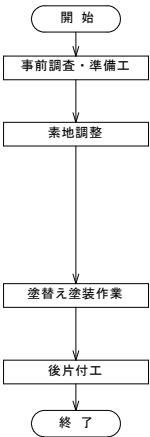


鋼部材再塗装工

位置図 S=1:100



施工手順



- ・施工に先立ち、現地調査より現場状況を把握し施工計画を行い、併せて必要協議の手続きをする。
- ・素地調整程度1種を行う。  
素地調整は、塗膜剝離剤+プラストとする。  
腐食、発錆している部分の錆を除去するとともに、旧塗膜の活膜上の付着物等も完全除去する。  
素地調整によって生じた旧塗膜のケレンダストは、有害物を含んでいることが多いので、周辺の土壌や河川を汚さないように十分留意するとともに、その廃棄は適切に行う。
- ・塗装は、スプレー塗りとする。塗装は素地調整終了後、同日中に必ず下塗りまたは補修塗りを行う。塗り重ねは、前工程の塗膜が十分乾燥してから行う。

Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m) <sup>2</sup>	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。  
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。  
※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

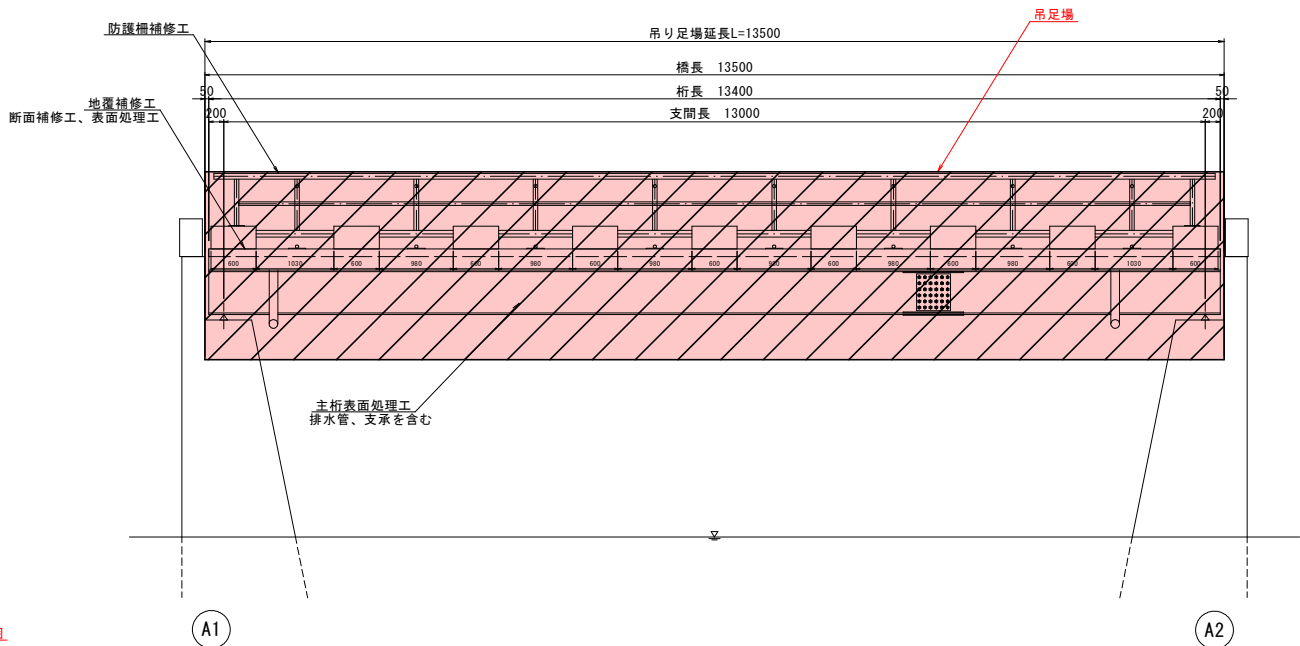
注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

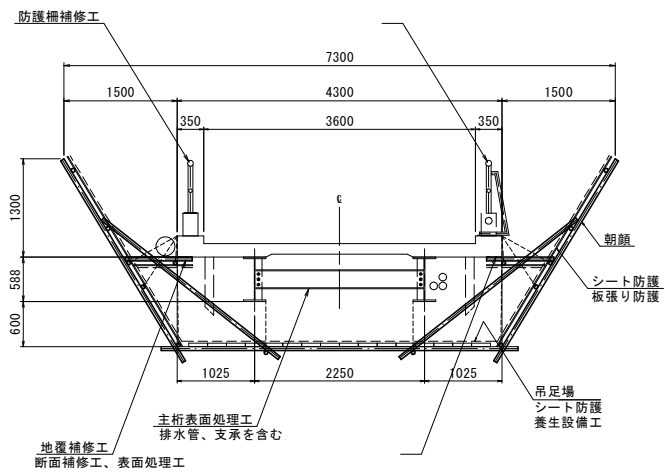
令和 7 年度		橋梁補修 工事	
工事番号		第 59 号	
路線 河川 名		下鳥谷部橋	
施工箇所		七戸町字下鳥谷部 地内	
施工計画図（案）		縮尺	図示
図面番号		11 葉中 11	
七 戸 町			
青 森 県			

下鳥谷部橋 施工計画図（案）

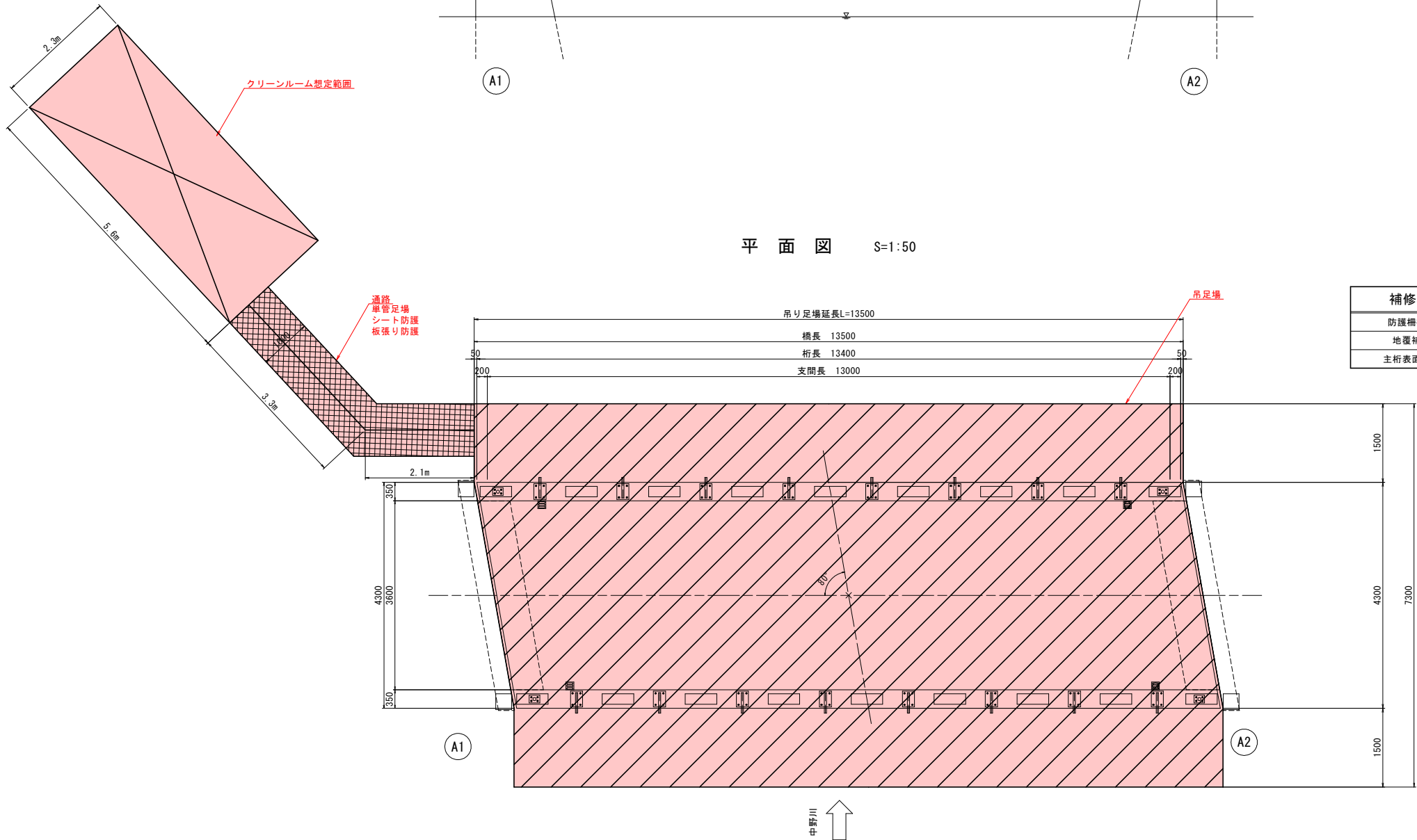
側 面 図 S=1:50



断 面 図 S=1:50



平 面 図 S=1:50



補修項目	補修工法	施工方法
防護柵補修工	防護柵取替工、地覆ブロック撤去工	吊り足場
地覆補修工	断面修復工(左官工法)、表面処理工(表面含浸工)	吊り足場
主桁表面処理工	鋼部材再塗装工(Rc-I 塗装系)※排水管、支承を含む、金属パテ補修工(排水管)	吊り足場

- 注記
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
  - 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
  - 工事にあたり、仮設方法(本業務では吊り足場)などについて、現地の状況を確認後、適する工法を選定し、関係諸機関と協議を行ってから作業すること。